

思いやり

山形県 第五中学校 2年 近野 功武

今年の夏のことです。友達と遊びにいった帰りに、一人のおばあさんが道端をのろのろと歩いていました。

自転車で近くまで来たところで、突然おばあさんが手をひざについて立ち止まりました。その姿を見た僕たちは、おばあさんに声をかけることにしました。

「おばあさん、大丈夫ですか。」

僕が言うと、おばあさんは、

「いや……大丈夫だよ。」

気持ち悪そうに、しゃべりづらそうに言いました。

僕たちは自転車を降りて、おばあさんにこう言いました。

「近くにある公園で休憩しましょう。」

おばあさんは、

「んだな……。」

と言いました。僕はおばあさんに塩分補給のアメを渡して、涼むために公園へ向かうことにしました。

公園に着くと、三人でいすに座りました。とても涼しい風が、枝の葉の音とともに僕たちをさわやかにしてくれました。そのうち、おばあさんの体調も少しずつよくなりました。会話をしていくうちに元気になってきたように見えました。

話しているうちに、互いに打ち解けることができました。僕たちが学校の話をする、おばあさんは、

「今、全校生徒は何人いんだ？」

と僕たちに問うてきました。

「今は二百数十人だよ。」

と返すと、おばあさんは、

「私のころは今の二、三倍だったんだぜ。」

と言いました。僕たちは驚きの顔をかくすことができませんでした。気がつくと、もう30分近くおしゃべりをしていました。

おばあさんは、夕食の準備があるからと言って、帰ろうとしました。しかし、僕たちのところまで来て、

「本当に助かった。今まで世話をしてくれてありがとう。」

と、頭を深々と下げて、笑顔でお礼をしてくれました。

親切にしようと思っても、なかなかできることではありません。僕は、思いやりの心が大切なのではないかと思います

家族や親類、友達や先生などの身内の人だけでなく、他人へも気を配りながら生活していきたいと思います。親切にされる側、親切にする側、どちらも心が温かくなると思います。